

あきた人

ロシア向け貨物

男鹿市出身の鈴木諭さん

空輸を陣頭指揮

ロシアの航空会社「エアロフロート・ロシア航空」の貨物部門の日本法人「エアロ・エアカーゴ」(東京)の執行役員営業本部長の鈴木諭さん(55)＝写真＝は男鹿市船川港出身。航空貨物の国際ライセンスを持つ日本の運輸会社約100社が顧客で、ロシア行きが陣頭指揮を執る。「ロシアは潜在力を秘めた国。行くと

びに活気ついている」と驚く。6、7月にロシアであったサッカーのワールドカップ(W杯)では日本のテレビ局4社と通信会社1社の放送機材をロシアへの直行便で現地に運んだ。現地との折衝のため2月にモスクワ入り。最高気温が氷点下15度、最低気温が同28度の寒さを体感した。



ロシアには旧ソ連時代から、たびたび数カ月単位で長期滞在した。1991年8月のクーデター直前にロシアを出国した時は「当時は携帯電話が普及しておらず、ずいぶん心配された」と振り返る。ロシア人について「怖い印象があるかもしれないが、一度仲良くなると、とことん面倒を見てくれる」と紹介する。

象に実施した海外航海体験で東南アジアを訪れ「国際畑の仕事がしたい」と英語を学び直した。大卒後に最初に勤めた運輸会社で国際航空貨物部門に所属。25歳で現在の会社に移って旧ソ連に行きだし、仕事では英語、日常生活ではロシア語を話すようになった。「必要に迫られれば外国語は身に付くと実感した」

同社は成田を軸に、中部(愛知)、関西(大阪)の各国際空港から旅客機で貨物を輸送。近年は半導体装置の輸出など需要が伸びている。今月初めの台風21号で被災した関西空港の様子を見るため、この週末も大阪に行くなど対応に追われた。「当社が輸送実績のない国や都市向けの扱いを増やしたい」と抱負を語る。

首都圏に住む秋田南高の同窓生でつくる東京南翔会の副会長。年3、4回は帰省し、船川中(現男鹿南中)時代の友人や高校時代の仲間と会うのを楽しみにしている。千葉真市川市住。

東京での大学時代、B&G財団(東京)が若者を対

(中田貴彦)